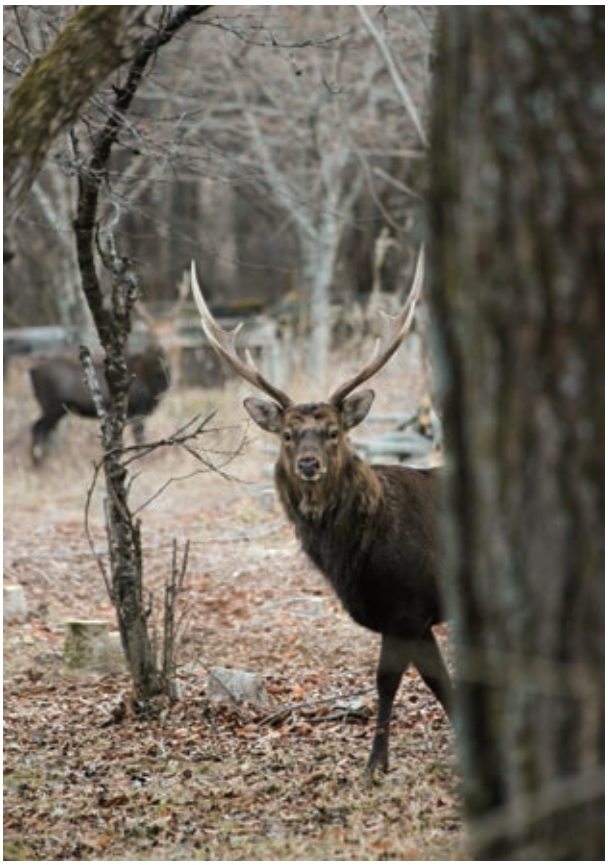
Fuji Iyashinomori Woodland Study Center

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

富士癒しの森研究所

2023



Fuji Iyashinomori Woodland Study Center, The University of Tokyo Forests (FIWSC, UTF)
Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo

東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

富士癒しの森研究所　案内図

※見学をご希望の方はお問い合わせ下さい。

この地図の背景は，測量法第29条に基づく承認「平28情複，第1150号」を得て，国土地理院発行の電子地形図25000を複製したものである。

富士癒しの森研究所

Fuji Iyashinomori Woodland Study Center

1．沿革と概要

富士癒しの森研究所は、浅間神社と山中湖村民の所有地約12haの寄付によって1925（大正14）年に富士演習林として設立されました。また、翌1926（昭和元）年から山梨県有地を借り受けて、演習林としての基盤を確立しました。その後、国有地の山中湖村への譲与、借入地の返地等を経て、現在は東京大学所有地と借入県有地を合わせた40haからなります。2011（平成23）年より「富士癒しの森研究所」と改称し、保健休養機能に優れた森林づくりや森林に親しむ地域づくりの研究に取り組んでいます。

写真１　富士山と山中湖に囲まれた富士癒しの森研究所

2．立地環境

本研究所は富士山麓、山中湖畔のわが国有数のリゾート地となっている山梨県南都留郡山中湖村に立地します。研究所へは、富士急行線富士山駅あるいはJR御殿場線御殿場駅から路線バス、東京のバスタ新宿から中央高速バスで、いずれも「山中湖村役場前」で下車して徒歩約３分です。

演習林は、山中湖畔の海抜高990mから1,060mのゆるやかな緩斜面に広がっています。土壌は、火山性礫質未熟土であり、表富士の海洋型気候から裏富士の内陸型気候への移行地点にあり、湿度のやや高い寒冷地です。近隣のアメダス山中観測所における過去10年（2011年～2020年）の年平均降水量は2,355mm、年平均気温9.9℃、最低気温は－19.4℃です。例年一番深い時で50～60cmの積雪があります。

3．森林の特徴

森林は冷温帯上部にあたります。1920年代以降に植栽されたカラマツ林が樹冠を占めつつ、亜高木～低木層の多様な広葉樹が混交し、落葉広葉樹林へ移行する遷移が進んでいます。その他に、ヨーロッパトウヒ、ストローブマツ、トドマツ、アカエゾマツ、カラマツ、ブナなどの試験林分があります。2013年までに約400種の維管束植物が確認されています。

写真２　フィールド内にある富士癒しの森講義室

写真３　長期滞在研究にも利用可能な自炊宿舎

4．施設

富士癒しの森研究所には、富士癒しの森講義室、自炊宿舎があり、また林内には東京大学運動会が運営する山中寮内藤セミナーハウスがあります。これらは実習、演習、課外活動および研究室のゼミ合宿の拠点として利用されています。

癒しの森講義室は、Wifiと大画面タッチスクリーンを完備し、オンライン会議にも利用できます。自炊宿舎は、台所、ユニットバスがあり、長期滞在の利用にも対応しています。

山中寮内藤セミナーハウスは、東京大学の宿泊施設で、大小３部屋の研修ルームがあり、通信環境も完備され、教育・研究活動のみならず各種研修に利用できます。

5. 大学教育

教育フィールドとしての富士癒しの森研究所は、平地もしくは緩傾斜に立地することから、野外経験の浅

写真４　山中寮内藤セミナーハウス

写真６　森林景観管理について学ぶ実習

い方の入門に最適です。森林はカラマツの人工林が主体ですが、下層植生は豊かで、多様な植物・植生景観や動物痕跡を観察することができます。演習林自体はさほど大きくありませんが、周辺地域にも見学可能な施設やフィールドがあり、教育活動をより充実させることができます。林内には快適に滞在できる山中寮セミナーハウスがあり、複数日程での教育活動を存分に行うことができます。東京都心からのアクセスが良いため、日帰りの実習を行うこともできます。

富士癒しの森講義室、山中寮のセミナールーム等の屋内施設を利用することで、フィールドワークと室内演習を効果的に組み合わせたプログラムが実施できます。また、宿泊する場合に滞在拠点となる山中寮は、留学生対応がなされています。卒業研究等で長期の調査をする場合は、研究所が管理する自炊宿舎の利用がおすすめです。

写真５　ストーブによる枯損木の有効利用

写真７　ドローンによる森林計測

研究所が主体となる教育プログラムとして、主に教養課程において、森の癒しを主題とした講義・実習を実践しています。

6. 研究

富士癒しの森研究所では、保健休養機能に優れた森林を実現するための技術や社会の仕組みについて多面的に研究しています。

（1）「癒しの森」の森林管理

森林管理の基礎となるのが森林現況の把握ですが、保健休養機能に着目した森林の把握方法はほとんど確立していません。「癒しの森」管理のための基礎研究として、実証林を活用しながら、森林景観を観測・評価する方法の開発に取り組みます。また、応用研究として、具体的な森林管理手法の研究に取り組みます。特に、森林は気候変動や獣害などの各種リスクにさらされていることから、これらのリスクに対応した森林管理のあり方を研究します。

（2）資源化、資源活用

「癒しの森」の実現において、枯損木や枝条、その他森林がもたらす資材を有効活用することが森林管理の手段となりえます。一般的な市場に流通しない低質材の資源化と、そのための適正技術を検討します。特に、森林管理と連動するような薪の利用システムを構築し、それが森林管理および地域社会にどのような貢献をできるのかを評価します。また、地域社会において、森林由来の資材や森林空間がより活用されるために必要な知識や技術を扱う教育・体験プログラム開発に取り組みます。

（3）ソーシャルデザイン

地域社会の中で、自律的に「癒しの森」が維持されていくためには、その恩恵を享受する人たちが協力して森づくりに関わる必要があります。地域における自治的な森林ガバナンスのあり方や、開かれた「癒しの森」を誰もが快適・安全に享受するための利用ルール・規範を検討します。

7. 社会連携

富士癒しの森研究所では、山中湖村との地域交流協定に基づき、森と観光に関すること、森と健康に関すること、森と教育に関することなど、森林が地域住民の暮らしや産業に関わる場面での共同事業に取り組んでいます。また、地域住民一般を対象とした公開講座などのイベントを開催しています。

地域住民の有志からなる「癒しの森の会」とともに、森に親しむ文化を地域の中に育むことを目指した活動を定期的に行っているほか、富士北麓地域を中心として、森づくりに取り組む団体とも連携し、森づくりあるいは森と親しむ文化の輪を広げることに貢献しようとしています。

写真 8　森の中での音楽会

写真 9　森林に囲まれた快適なオンライン会議

写真 10　地域住民を対象としたチェンソー講習会

見学コース見どころ案内　※見学をご希望の方はお問い合わせ下さい。

① 実習・長期研究エリア
見学コース 標準時間 60 分

様々な樹種を造林した試験地や長期試験地などがある。なだらかな傾斜を登り、小さな谷を渡り戻ってくるコースで、ゆるやかながらも地形の変化が楽しめる。

② 宿泊・利用施設エリア
見学コース 標準時間 50 分

宿泊施設の山中寮を起点に湖畔沿いの森林内散策路と芝生広場、グラウンド、草原、そして自炊宿舎と講義室をめぐるコース。湖畔広場から富士山がよく見える。

③ 癒しの森プロジェクト
実証林コース 標準時間 50 分

事務所を起点に癒しの森プロジェクトの解説を聞きながら実証林を見学する、平らでコンパクトなコース。東大馬術部の馬(部員も)が夏季に合宿する馬房がある。

い

寒地性樹種成長試験地
寒冷な地域での造林に適した樹種を探索する目的で，海外や北海道の樹種を集めて試験的に造林し成長を計測している。

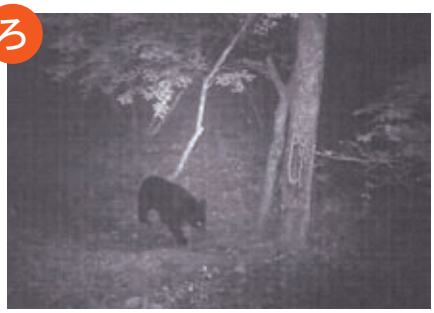
に

東屋のある湖畔広場
山中湖に面した芝生の広場。湖水と緑の風景を楽しむことができる。東屋の壁は枯損木を利用した薪原木を積み上げたもの。

と

事務所
ご用の方はこちらをお訪ね下さい。暖房は薪ストーブ。薪は林内の枯損木で全てまかなえる。裏手に作事場があり各種道具がある。

ろ



自然観察歩道
林内の歩道は樹木や草花の調査研究だけでなく，野鳥などの野生動物観察にも活用される。写真は自動撮影で捉えたツキノワグマ。

ほ

古在ヶ原（こざいがはら）（右は農学部図書館にある像）
第 10 代総長古在由直博士の名が由来の草原。総長在任中に当演習林が開設された。命名の経緯について詳細は不明である。

ち

アカマツ林
年に一度林床の落ち葉をすっかりかいて焚き火をすることで，すっきりした印象のアカマツ林の景観を維持している。

は

長期生態系プロット
森林が長い時間をかけて自然に変化していく姿を記録するため、50 メートル四方の区画を設定し 5 年に 1 度計測を続けている。

へ

富士癒しの森講義室と自炊宿舎
開設当時の趣を残す築約 90 年の栂（つが）普請（ぶしん）による木造建築。大事に改修しながら活用している。講義室の内装は研究所のカラマツを活用した。

り

癒しの森プロジェクト実証林
管理状態の違う 3 区画を用意し，景観や人の受ける影響，植生などを調査している。写真はレーザ測量データによる 3DCG 画像。

当研究所には、森林生態系の解明や森林管理を検討するための試験地が数多く設置され、長期にわたる学術的な調査を行っているため、一般の方の入林を制限しています。教育、研究、森林の維持・管理に対する皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

利用案内

当研究所での調査・研究や林内での見学には利用計画書の提出や利用届けが必要です。利用の２週間前までに電話・メールなどで申込みの上、１週間前までに利用申請書を提出して下さい。利用申請書はウェブサイトよりダウンロードできます。

講義室

富士癒しの森講義室（定員約 20 名）を利用することができます。ご相談下さい。

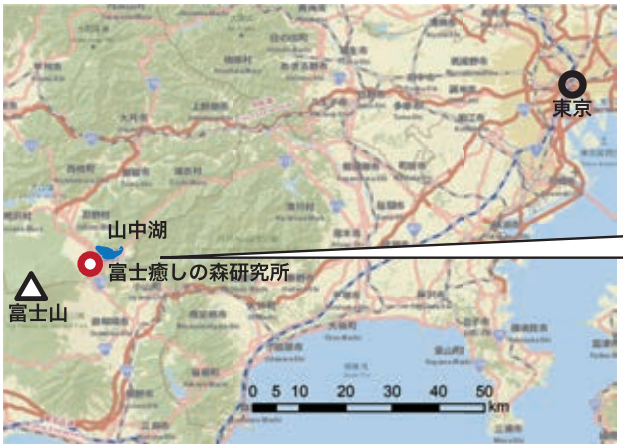
宿泊施設

富士癒しの森研究所山中宿泊施設（自炊宿舎・定員３名）を利用することができます。
利用を希望する場合は「宿泊申込書」も併せて提出して下さい。
山中寮内藤セミナーハウスの宿泊を希望する場合は直接、山中寮（TEL 0555-62-0491）へお問い合わせ下さい。
その他、周辺に民営の宿泊場所が多数あります。

利用条件・使用料

施　設	本学		他大学		その他	義務教育修了前の者
	学生等	教職員	学生等	教職員		
自炊宿舎（宿泊料金一泊につき）	0 円	500 円	350 円	600 円	1,000 円	0 円
自炊宿舎（日帰り利用料金）	1,000 円／日					
講　義　室（日帰り利用料金）	1,000 円／時間					

研究所の所在地



Sources: Esri, HERE, DeLorme, USGS, Intermap, INCREMENT P, NRCan, Esri Japan, METI, Esri China(Hong Kong), Esri Korea, Esri(Thailand), MapmyIndia, NGCC, © OpenStreetMap contributors, and the GIS User Community

交通案内

山中湖南湖畔、バス停「山中湖村役場前」下車、徒歩約３分
１．東京バスタ新宿から中央高速バス新宿富士五湖線で約２時間 15 分
２．ＪＲ中央線大月駅から富士急行電鉄で富士山駅下車
　　富士急行バスの御殿場行き／山中湖・平野行きで約 25 分
３．ＪＲ御殿場線御殿場駅から富士急行バス河口湖駅行きで約 40 分
４．東富士五湖道路山中湖インターチェンジから国道 138 号線を東に、自動車で約 10 分

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林　富士癒しの森研究所

〒 401-0501　山梨県南都留郡山中湖村山中 341-2　TEL 0555-62-0012　FAX 0555-62-4798

Yamanaka 341-2, Yamanakako-mura, Minamitsuru-gun, Yamanashi 401-0501

Tel. +81-555-62-0012, Fax. +81-555-62-4798

ウェブサイト https://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/fuji/

E-mail: fuji@uf.a.u-tokyo.ac.jp

富士癒しの森研究所

表紙写真
左上写真：フロストフラワー　右上写真：キビタキ
左中写真：紅葉
左下写真：マメザクラ　右下写真：シカ